



## メダカの子は、親といっしょに飼ってもいいの

### 親メダカの3分の2ぐらいの大きさになったら

メダカは、春から秋にかけて、水温が18℃以上になると、卵を産みます。メダカの産卵は、必ず、明け方で、メスが産んだ卵は糸のようなものがついていて、水草などにくっきます。この卵を、親と同じ水そうに入れたままにしておくと、ふ化したメダカは、えさとまちがえられて食べられてしまいます。

そこで、卵のついた水草を、親とは別の水そうに移します。水草についた卵は、そのままそうとしておくと、水温が20℃ぐらいなら、10日ほどで卵がかえります。

赤ちゃんメダカには、ゆで卵の黄身や、キンギョのえさをすりつぶしたものを水でといて、1日に3～4回、あたえます。メダカの子どもの大きさが、親の体の3分の2ぐらいになるまで成長したら、親と同じ水そうに入れてもだいじょうぶです。

### メダカは飼いやすい

メダカは、水草を植え、底にじゃりをしいただけの水そうで、飼うことができます。気をつけるのは、水道水を1日以上くみ置いた水を使うことと、水草を植えこんでやることぐらいでしょう。

えさは、売っているキンギョや熱帯魚のえさ、イトミミズ、アカムシ、ミジンコなどを、1日に1～2回、一度に食べ終わる量をあたえます。水がよごれていなければ、水を取りかえる必要はありません。（監修・安部 義孝）

